

登録番号 第 22725 号

キックオフ®顆粒水和剤

- 2種類の有効成分で幅広い害虫に効果を発揮します。
 特長： ●速攻的な殺虫・被害抑制効果に加えて、長い残効があります。
 ●育苗トレイに灌注することもできるため、均一かつ省力的な処理も可能です。

有効成分	クロラントラニリプロール（化管法第1種）・・・4.0% ジノテフラン（化管法第1種）・・・15.0%	包装	250g×40
性状	類白色水和性細粒	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用害虫及び使用方法】

2022年10月12日付内容

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用 時期	本剤の 使用回 数	使用 方法	クロラントラ ニリプロール を含む農薬の 総使用回数	ジノテフランを 含む農薬の 総使用回数
なし	カミシ類	2000倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	3回 以内	散布	3回以内	3回以内
もも	シクムシ類 カミシ類 ハマキムシ類 モモハグサガ	2000倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	2回 以内	散布	2回以内	3回以内
初刈り	シクムシ類 カミシ類 ハマキムシ類 モモハグサガ	2000倍	200～700 L/10a	収穫3日 前まで	2回 以内	散布	2回以内	3回以内
うめ	カミシ類 カミシ類	2000倍	200～700 L/10a	収穫14 日前まで	3回 以内	散布	3回以内	3回以内
かき	コカガラムシ類 カキハマムシガ カミシ類 アザミヤ類 カミシ類	2000倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	3回 以内	散布	3回以内	4回以内 (塗布は1回以内、 散布は3回以内)
キャベツ	アブラムシ類 コカガ アオムシ ヨウムシ ハモンヨウ ハマダラメカ アザミヤ類	100倍	セル成型育苗トレイ 1箱または ペーパーポット1冊 (30×60cm・ 使用土壌 約1.5～4.0L) 当り0.5L	定植前日 ～定植時	1回	灌注	4回以内 (定植時までの 処理は 1回以内、 定植後の 処理は 3回以内)	3回以内 (育苗期の株元散布、 定植時の土壌混和 及び灌注は 合計1回以内、 散布及び無人航空機 散布は合計2回以内)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニプロールを含む農薬の総使用回数	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
はくさい	アブラムシ類 コガ アムシ ヨウムシ ハイマダラメカイ	100倍	セル成型育苗トレイ 1箱または ペーパーポット1冊 (30×60cm・ 使用土壌 約1.5～4.0L) 当り0.5L	定植前日 ～定植時	1回	灌注	4回以内 (定植時までの 処理は 1回以内、 定植後の 処理は 3回以内)	3回以内 (定植時の土壌混和 及び灌注は 合計1回以内、 散布は2回以内)
ブロッコリー	アブラムシ類 コガ アムシ ハモンヨウ ヒメダクイソバエ	100倍	セル成型育苗トレイ 1箱または ペーパーポット1冊 (30×60cm・ 使用土壌 約1.5～4.0L) 当り0.5L	定植前日 ～定植時	1回	灌注	4回以内 (定植時までの 処理は 1回以内、 定植後の処理 は3回以内)	3回以内 (定植時の土壌混和 及び灌注は 合計1回以内、 散布及び無人航空機 散布は合計2回以内)
レタス	アブラムシ類 オタバコガ カブラヤカ ナメクジバエ ハモンヨウ	100倍	セル成型育苗トレイ 1箱または ペーパーポット1冊 (30×60cm・ 使用土壌 約1.5～4.0L) 当り0.5L	定植前日 ～定植時	1回	灌注	4回以内 (定植時までの 処理は 1回以内、 定植後の処理 は3回以内)	4回以内 (は種前の培土混和は 1回以内、 育苗期の株元散布、 定植時の土壌混和 及び育苗トレイへの 灌注は合計1回以内、 散布は2回以内)
非結球 レタス	アブラムシ類 オタバコガ カブラヤカ ナメクジバエ ハモンヨウ	100倍	セル成型育苗トレイ 1箱または ペーパーポット1冊 (30×60cm・ 使用土壌 約1.5～4.0L) 当り0.5L	定植前日 ～定植時	1回	灌注	4回以内 (定植時までの 処理は 1回以内、 定植後の処理 は3回以内)	4回以内 (は種前の培土混和は 1回以内、 育苗期の株元散布、 定植時の土壌混和 及び育苗トレイへの 灌注は合計1回以内、 散布は2回以内)
ねぎ	ナメクジバエ類 アザミウマ類 シイロシヨウ クハネキノコバエ類	100倍	セル成型育苗トレイ 1箱または ペーパーポット1冊 (30×60cm・ 使用土壌 約1.5～4.0L) 当り0.5L	定植前日 ～定植時	1回	灌注	4回以内 (灌注は 1回以内、 定植後の処理 は3回以内)	4回以内 (は種時の土壌混和、 育苗トレイへの灌注及び 定植時の株元散布は 合計1回以内、 生育期の株元 灌注は1回以内、 散布、無人航空機散 布及び定植後の株元 散布は合計2回以内)
さとうき び	カンシヤコバネガカミシ サウキヒビヒアザミウ マ アヲヨウ ツクシ類 アブラムシ類 メイトウ類 ツマシロクサヨウ	2000倍	100～300 L/10a	収穫30 日前まで	3回 以内	散布	4回以内 (粒剤は 1回以内、 水和剤は 3回以内)	5回以内 (粒剤は2回以内、 液剤、水溶剤及び 水和剤は 合計3回以内)

使用上の注意事項

- (1) 使用量にあわせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 本剤をセル苗に使用する際は、調製液をセル成型育苗トレイまたはペーパーポット上方から灌注すること。また、本剤が土壤に十分に吸収されないおそれがあるので処理直前や直後の灌水はさけること。
- (3) はくさいに使用する場合は、軟弱徒長苗、高温乾燥時、あるいは過剰使用により、葉縁が退色するなど薬害を生ずる恐れがあるので、健苗を用意して、適切な温度管理につとめ、所定の使用液量、濃度、使用時期を厳守して使用すること。
- (4) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (5) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - 1) ミツバチ等の巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
 - 2) 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけること。
 - 3) 関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (6) 空袋は圃場などに放置せず、適切に処理すること。
- (7) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (8) 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。使用後は洗眼すること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。